



# 西念寺だより 師走号



平成29年12月10日  
〒610-0331 京田辺市田辺北里29番地  
TEL 0774-62-1027 0774-63-2912

## 「一人一人の尊厳と人権の尊重—身近なことから人権を考える」

山里は冬ぞ寂しさまさりける 人目も草もかれぬと思へば  
源宗于朝臣（28番） 『古今和歌集』

訪れてくる人もいなくなり、草も枯れ果てて葉の落ちた木々の枝に雪が積もるような山里の冬・・・、人の気配が消え生命の様子が見えなくなった山里の寂しさや心細さが伝わってきます。

もうすぐ冬至、この日は日の入りと日の出の方角が最も南寄りになり、昼間の時間が一年中で最も短くなります。陰暦10月に陰が極まって11月の冬至に陽が初めて生じることから、「一陽来復」とも言います。昔から「冬至には湯治」の楽しみがあり、南瓜を食べ、ゆったりと柚子湯に入ると万病を防ぐとも云われ、「雪下麦を出す」の言葉どおり、大地は雪に覆われていても、雪の下では早くも麦の芽が出始めています。



各御家庭では暖房器具の使用が始まり、本格的な冬の訪れを感じます。早いもので今年もあと一ヶ月足らずとなりました。今年も4月に厳修いたしました輪番御忌をはじめ、多くの年間行事に御参加、御参詣いただきました皆様方には心より厚く御礼申し上げます。お陰をもちまして、どの行事も大変盛大に終わることが出来ました。

また来年11月には五重相傳を開筵いたしますが、当初の予想を大きく上回り、現在145名の参加申し込みをいただいております。御世話いただきます各御寺院住職様方と共に、無事満行出来ますよう鋭意準備を進めておりますので一層の御協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

さて、例年12月に入ると『人権』ということばを新聞やテレビ等で見たり聞いたりする機会が多くなります。世界におけるさまざまな動きには、人権に関する問題が根底にあり、その解決を展望することが改めて強く求められています。

浄土宗においても、今年も人権アピールとして「あなたとわたし ちがうからステキ、出会えてよかった あなたのいのち わたしのいのち」とし、法然上人のお念仏の心を生かし、明るく正しく仲良く生きることの取組を推進しています。

『「寒いね」と話しかければ「寒いね」と答える人のいるあたたかさ』

(サラダ記念日より河出書房新書)

私たちも普段から様々な人々との関わりの中で、相手が言われて嬉しい言葉や励まされる言葉を少しでも多く使い、また自分にもそうした言葉かけを少しでも多くしてもらえ人間関係を築きたいものです。そのためには、自分のよさに気付くと共に、相手のよさを認め大切にしようとする心を育てることが肝要だと思います。

腰塚勇人さんの著書に「命の授業」という本があります。元中学校の体育教師だった腰塚勇人さんはスキー事故で「一生、寝たきり」と宣告され、自殺未遂をするところまで追い込まれました。そこから家族や生徒の応援で奇跡的に体が動くようになり、僅か4ヶ月で職場に復帰を遂げることができたという話の中に次のような一節があります。

「口」は人を励ます言葉や感謝の言葉を言うために使おう

「耳」は人の言葉を最後まで聴いてあげるために使おう

「目」は人のよいところを見るために使おう

「手足」は人を助けるために使おう

「心」は人の痛みがわかるために使おう



算数では1+1=2ですが、人と人との繋がりには1+1が3や4にもなります。この人権週間を通じて、相手を尊重し、優しい言葉かけを通してあたたかい人間関係を構築出来るように心掛けたいものです。

[裏面に続く](#)

## 【佛教婦人会秋のレクレーションから】

先月28日、佛教婦人会様主催による秋のレクレーションが、多くの参加者を得て行われました。

貸し切りバスで田辺を出発し、将軍塚青龍殿や青蓮院門跡、旧三井家下鴨別邸、下鴨神社等、京都市内で田辺の近くにもかかわらず、普段あまり見ることもなかったところを拝観でき良かったと好評を得ました。

また、爽やかな絶好の好天に恵まれ、目にも鮮やかな燃えるような赤に色づいた紅葉と、その隙間を縫うように差し込む木洩れ日のコントラストは素晴らしく、普段の疲れた身体を癒しながら充実した時の流れを満喫できました。

佛教婦人会員様以外にも、檀家総代の香村侃彦氏、評議員の下村新一氏にも御参加いただき、誠に有り難うございました。これからも是非多くの皆様に御参加いただきますよう、宜しくお願い申し上げます。

また、檀家総代長の大崎勲氏より御参加の皆様にしり入れをいただきました。有り難うございました。



## 【除夜の鐘撞きのお知らせ】

別紙プリントでも御案内していますが、大晦日の夜、午後11時45分頃から鐘を撞き始めます。お越しいただいた方全員に鐘を撞いていただいておりますので、是非皆様お誘い合わせの上、お越しくださいますよう御案内申し上げます。



## 【五重相傳会追加申込み募集のお知らせ】

五重相傳会には大変多くの方々からお申し込みをいただきまして誠に有り難うございます。当初は前回平成7年の時のような本堂のかけ出し工事は行わず、本堂の中だけで開催する予定で定員を最大120名としておりましたが、皆様方から多くの有り難いお申し込みをいただきまして、現在受者は145名となっております。

そこで、当初計画しておられませんでした本堂のかけ出し設置も視野に入れて、追加申込みの再募集を行うことになりました。もしまだお申し込みをお考えの方がおられましたら、御一報くださいますよう宜しくお願い申し上げます。

次の開筵は約25年後の2040年頃の開催になるものと思われまます。それまでに五重相傳に御参加をお考えの方がおられましたら、この機会にお受けいただきますよう宜しくお願い申し上げます。最終申込み締め切りは来年3月末日とさせていただきます。

## 【寄進状況のお知らせ】

今回、下記の方々から建築資金の御寄進を賜りました。第2期工事として山門や鐘楼等の工事が控えており、有り難く厚く感謝申し上げます。

- ・ 100万円 北尾 芳一氏
- ・ 50万円 橋本 進氏



## 【院号料御寄進のお知らせ】

今回は下記の方より院号(什器什物基金)料を御寄進いただきました。誠に有り難うございました。御寄進いただきました方の御芳名は本堂内にも掲出してあります。

- ・ 院号(什器什物)料 金35万円 為 浄善院満誉紫雲清光居士(故山岡満氏)  
施主 山岡翔大氏